

3 章 会津美里町観光振興基本構想

1. 会津美里町における観光の基本的な考え方

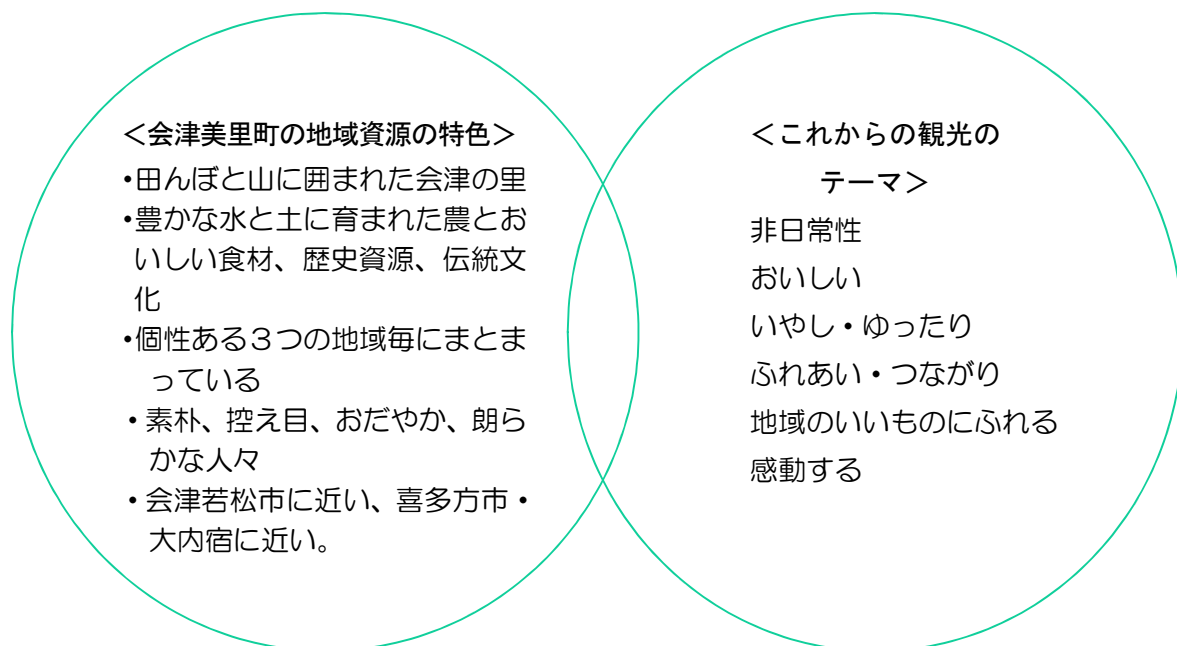
1) まちづくりにおける観光の役割

- ・観光は「まちづくりの総仕上げ」であり、具体的には次のような役割を担うものと考えられる。さらに、着地型観光においては、地域の人が地域の資源で独自に観光商品を企画・運営するというその特性から、その役割が一層期待される。

○町民が町の良いところを自慢できる	⇒「誇り」を醸成する
○町民が活躍する	⇒「仕事」を生む
○町民が楽しめる	⇒「いきがい、喜び」を生む
○仲間が増える	⇒「交流」を促進する

2) 会津美里町の地域資源の特色とこれからの観光のテーマ

- ・〈会津美里町の地域資源の特色〉を下記のとおり整理すると里山の素朴な魅力があるものの、際立った個性が発揮できていないことから、大型観光地のように、団体旅行等で大衆が押し寄せる旅行形態は成立しにくい状況と言える。一方、〈これからの観光のテーマ〉（先行性のある旅行愛好家や若者の意見、1章で整理）を見ると、会津美里町の地域資源の特色と親和性があることが分かる。
- ・これらに応じる形で、会津美里町の地域資源や置かれた環境をどううまく使っていくかが課題となる。



3) 将来像と基本理念

- ・現状では、近隣に大型観光地があるものの、本町は通過点、あるいはイベントのみの単発での来訪に限られており、観光地として認識されていない。また、町内においても、町民自身が地域の魅力を十分に活かしきれていない状況である。豊かな自然と歴史文化に恵まれた里山の地域資源を最大限に活かし、内外の様々な人や地域をつなげながら、きらりと輝くものを見つけ、創造し、発信していく中で、町民が誇りを醸成し、ひいては、町民も来訪者も元気になれるような観光地を目指す。

【将来像】 いればいるほど元気になれる ^{うるわ} 美しの里

【基本理念】 会津美里町の地域資源を活かし、人が主役となり、地域をつなげる観光地づくり

4) 取組みの基本方向

- ・上記将来像の実現に向け、次の4つの方向を示す。

基本方向1: 心地よく滞在でき、つい長居してしまう環境を演出する

現状では、観光情報の入手や町内の移動、飲食や買物、宿泊等、観光客が町内を周遊するための基本的な施設やサービスが不足していることから、観光客のニーズに応じながら、これらを充実させ、少しでも長く滞在できる環境を演出する。

基本方向2: 会津美里町ならではの、感動とリピーターを呼ぶ観光商品をつくる

本町は素朴ながら豊かな自然と歴史文化に恵まれているものの、外に発信する観光商品ができていないことから、これら地域資源を町民のアイディアを活かしながら、観光客が感動し、また来たいと思えるものに磨き上げる。

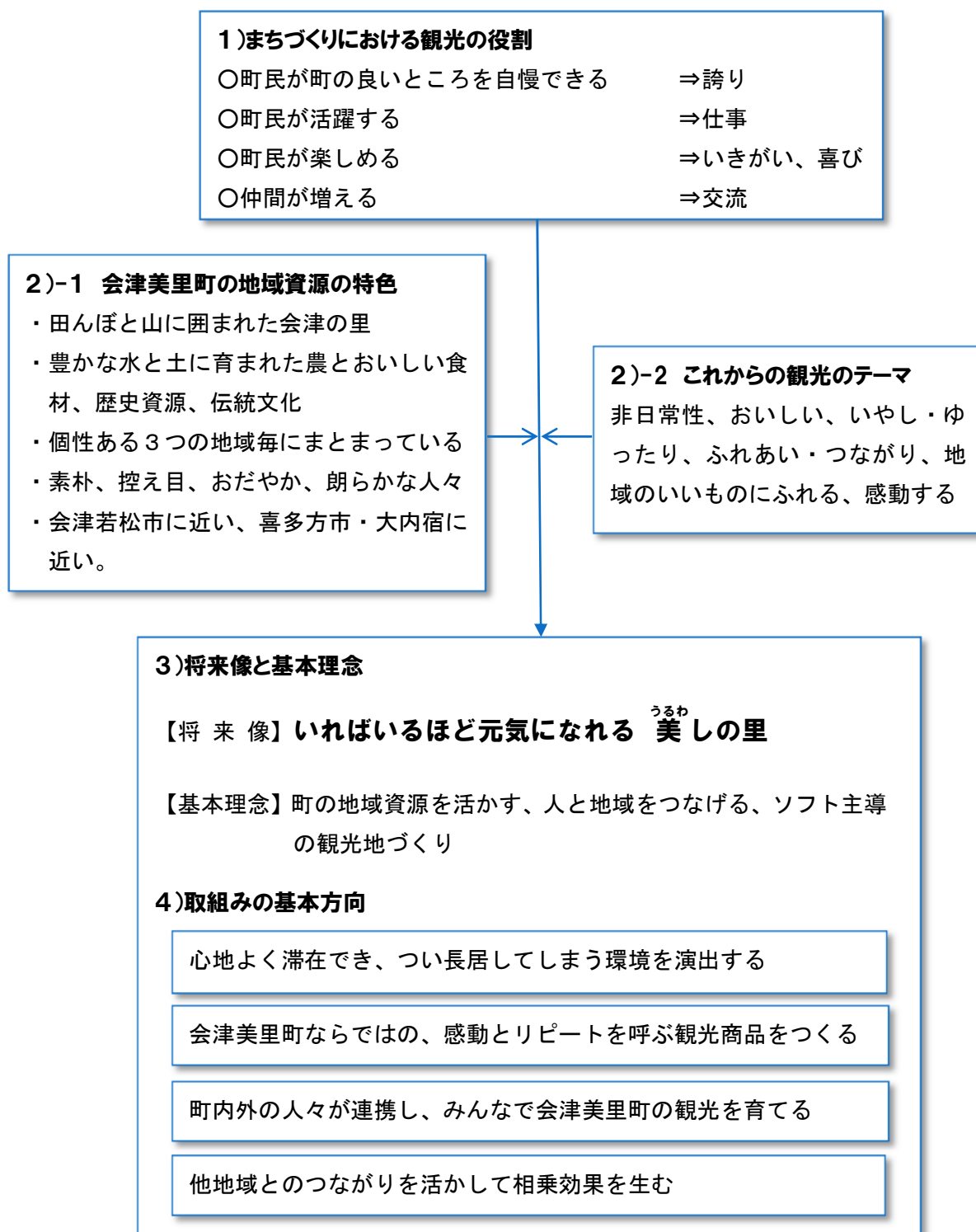
基本方向3: 町内外の人々が連携し、みんなで町の観光を育てる

地域の担い手不足が懸念されるなか、町民はもとより、町内外に関わらず、町の観光振興に賛同する人々をつなげ、その力を結集することで、会津美里町の観光を育てる。また、会津美里町ならではの魅力や観光商品等を積極的に発信することで、消費行動への動機づけを行うとともに、町の知名度を上げ、町民の誇りを醸成する。

基本方向4: 他地域とのつながりを活かして相乗効果を生む

会津地域との連携や、都市部との交流、外国人観光客の誘致を促進することにより、町単独では生み出すことのできない魅力価値を創造するとともに、新たな観光客を呼び込む。

■会津美里町の観光の基本的な考え方



2. 計画の基本目標

1) 全体目標

- ・会津美里町における観光産業の確立を目指し、現在の観光入込を基礎に、観光客の滞在時間の延長などによる消費額の拡大を図りつつ、入込数を拡大していく。そこで、一人当たりの観光消費額と観光入込客数を計画の全体目標とする。なお、目標値は、5カ年基本計画の最終年度である平成32年度とする。

■全体目標の設定と算出方法

指標	現況値 (H26)	目標値 (H32)	算出方法
一人あたりの 観光消費額【B】	2,452円	3,720円	<ul style="list-style-type: none"> ・主な観光関連施設から入込数及び売上額（主力商品の平均単価）等のデータを集計し、これらの合計金額を合計入込数で割る。 【主な観光関連施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・物販：会津本郷陶磁器会館、ふるさと観光物産館、流紋焼、酔月焼 ・飲食：野菜ビュッフェ・ナポリピッツァいわたて、Café&marché Hattando ・宿泊施設：新鶴温泉ほっとぴあ新鶴、にんじん湯吹上荘、花紋屋旅館、会津野ユースホテル、割烹旅館吉田屋、蛸の宿こぶし荘
観光入込客数	205万人	210万人	・「福島県観光客入込状況」発表の公式数値
観光施設における入込客数（寺社参拝者、温泉施設等、観光消費額が発生しない施設を除く）【A】	6.3万人	6.8万人	・入込数がカウントできる主な観光関連施設からデータを集計し、その合計。
観光消費額	1億5,448万円	2億5,296万円	（【A】 観光施設における入込客数） ×（【B】 一人当たりの観光消費額）

*平成26年度アンケート調査結果における観光客一人あたり消費額：3,188円
(町内で使った総費用の平均)

*平成 26 年度の平均宿泊費：11,083 円

(町内各宿泊施設における宿泊客数に基本的な単価を乗じて、一人当たりの平均額を算出)

※参考数値（一人当たりの観光消費額の目標値）出典

観光庁『旅行・観光消費動向調査 2014』、東北地方を主目的地とした国内日帰り旅行の旅行単価の内、飲食費と土産・買物代の合計値。

総額：12,843 円、参加費：939 円、交通費：5,214 円、飲食費：1,368 円、土産・買物代：2,352 円、入場料・娯楽費・その他：1,065 円（品目別割合は、国内日帰り旅行の総旅行消費額における割合を元に算出）

参考：個別目標

- ・各施策の柱毎に個別指標を設定する。

■各施策別の個別目標

施策の柱	指標	現況値 (H26)	目標値 (H32)	備考（データ入手）
A. 観光地としての受け入れ基盤の整備	観光宿泊客数	9,938 人	14,000 人	・各施設への聞き取り（行政が把握）
	観光レンタサイクル貸出件数	7 件	100 件	・観光協会等で把握。
B. 着地型観光の確立	会津本郷焼事業協同組合の売上額	112 百万円	224 百万円	・会津本郷焼事業協同組合への聞き取り（会津本郷焼振興計画）
	歴史文化事業・施設等への町外参加者数	265 人	335 人	・行政が把握
C. 観光まちづくりの推進	ポータルサイトへのアクセス数	115,961 件	230,000 件	・町ホームページ及びミサトノ（観光協会）へのアクセス数。
	観光ガイドの回数	56 件	70 件	・観光協会等で把握。
D. 地域連携による観光事業の拡大	海外からのポータルサイトへのアクセス数	—	15,000 件	・町ホームページへの海外からのアクセス件数
	観光施設への wifi 環境の整備箇所数	—	5 カ所	・行政が把握

3. 戦略的方針

一人当たりの観光消費額と観光入込客数を拡大するための戦略的方針を次に示す。

◎来訪（予定）者を3つに分類し（ターゲット設定）、そのニーズに応じて体験プログラム等を開発し、プロモーションを展開する。

ターゲットA. 現在、会津美里町に来ている観光客

- ・イベント参加者等の現在の観光客に対しては、より長い滞在、より多い消費を促し、あわせてリピート需要を創出する。

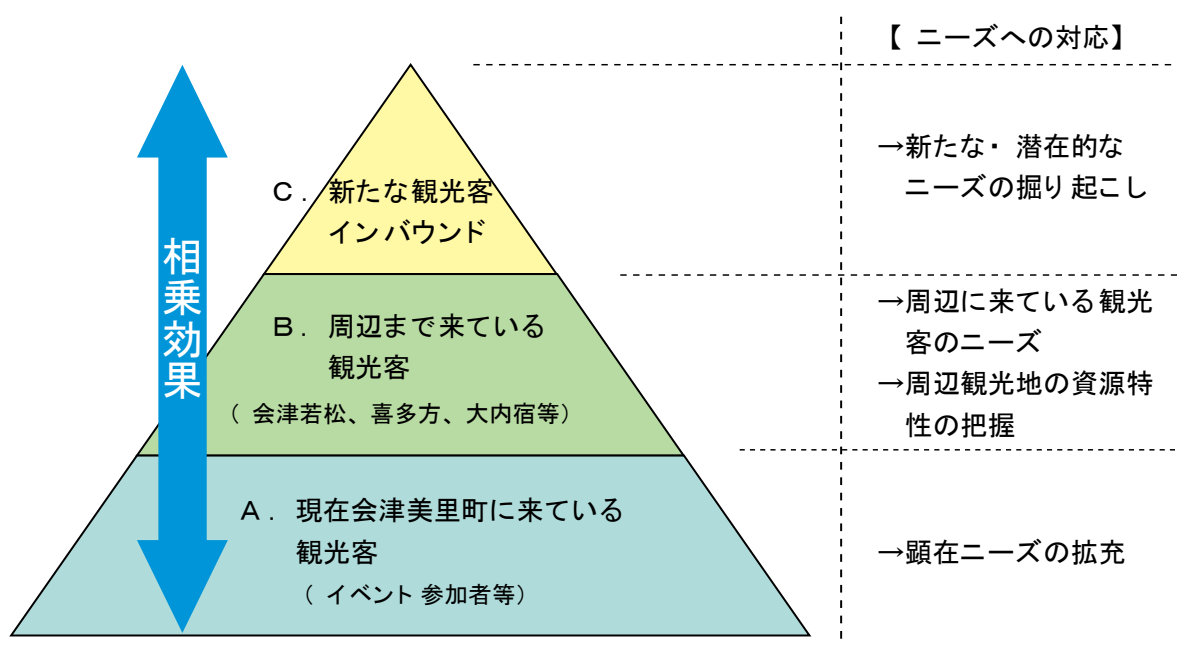
ターゲットB. 周辺まで来ている観光客

- ・近隣の会津若松市、喜多方市、大内宿等の観光客を取り込むことに加え、新潟市、山形市、郡山市等の周辺都市住民を会津美里町へ呼び込む。これらの地域の観光客ニーズや、競合地域の地域資源に対抗できる観光商品を開発する。

ターゲットC. 新たな観光客、インバウンド

- ・新規に呼び込む観光客（女性、インバウンド含む）に向けては、会津美里町の資源を活かした着地型観光を開発・発信し、新たな・潜在的なニーズを掘り起こす。

- ・A～Cの各ターゲットに対応することにより、それぞれ相乗効果が生まれ、町全体の観光入込客数や観光消費額等の経済的効果を達成することができる。



4. 基本構想

1) 施策の体系

- ・ 以上を踏まえ、次のA～Dを本観光振興計画における基本構想とする。

A. 観光地としての受け入れ基盤整備

- ・ 観光地として楽しんでいただくための基本的な基盤づくりを行う。
- ・ 観光の目的地で鑑賞や体験を楽しむ以外の、情報を入手する、移動する、食事を楽しむ、宿泊をする、お土産を買うという観光客の行動をサポートし、楽しませ、町内での滞在時間の延長を促す。
- ・ これらの実現には、空き店舗や空き家等の既存施設を積極的に活用し、まちなかの賑わいを再構築する動きにつなげていく。

B. 着地型観光の確立

- ・ 高田、本郷、新鶴それぞれの地域の特色を活かして、体験を中心とした着地型観光プログラムをつくり、〈会津美里町の観光〉を確立する。
- ・ ターゲットのニーズや嗜好を意識し、資源の組み合わせや深堀をしながら、資源を磨くとともに、ターゲットに満足して頂ける商品づくりを目指す。
- ・ 3地域のつながりを活かす、あるいは生み出すプログラム、また、会津地域で存在感を発揮できるようなプログラムづくりを心掛ける。
- ・ 最終的には、そのテーマや活動に応じた交流拠点を確保し、リピーター増や年間を通じた交流につなげていく。

C. 観光まちづくりの推進

- ・ 観光の担い手を育成しながら、町の観光の推進体制を確立する。
- ・ 町民を巻き込む機会や仕組みをつくり、町民発の観光プログラムや特産品開発を促す。
- ・ 既存の組織や人材をネットワークした推進組織を立ち上げ、会津美里町らしいプログラムづくりや情報発信等の取り組みを経て、会津美里町に適した推進体制を確立する。
- ・ 話題づくりの観点から、常に情報発信を行う。

D. 地域連携による観光事業の拡大

- ・会津地域との連携を強め、都市部や外国人との交流を促進することにより、観光地としてのブランド力向上や交流人口の拡大を図る。
- ・他地域との連携による相乗効果で体験プログラム等の質を高める。
- ・会津のネームバリューを活かし、効率的でインパクトあるプロモーション活動を行う。
- ・最終的には、人材育成や観光地経営の面で会津地域が連携し、運営体制の強化を図っていく。
- ・増加する外国人観光客を取り込む。
- ・都市部との交流により、会津美里町の価値を知る観光客<会津美里町サポーター>を増やす。

■施策体系図

《4つの施策の柱》

《17の戦略プログラム》 【 】内は該当ページ

A. 観光地としての受け入れ基盤整備

1. 既存イベントを活かした観光の拡充【p76】

2. まちなか観光の構築【p78】

3. 宿泊拠点の整備【p79】

4. 立ち寄り拠点の整備【p79】

5. 二次交通網の拡充【p80】

B. 着地型観光の確立

6. ものづくり体験ツアーのパッケージ化【p81】

7. グリーン・ツーリズムの育成【p82】

8. 歴史文化ツーリズムのパッケージ化【p84】

9. スポーツ・ヘルス・ツーリズムのパッケージ化【p85】

C. 観光まちづくりの推進

10. 会津美里町の観光の推進体制の構築【p86】

11. いきがい観光の推進【p87】

12. UIターンの促進、及び連携推進【p88】

13. 町の観光を担う人材の育成【p89】

14. ターゲットに応じた情報発信・プロモーション【p90】

D. 地域連携による観光事業の拡大

15. 広域連携による観光パッケージの拡大【p92】

16. 友好姉妹都市等との交流観光の促進【p92】

17. インバウンド観光の充実【p93】

2) 全体構想

- ・本計画の全体構想（ゾーン設定と二次交通ネットワーク）を次頁の図に示す。
- ・町の田園が広がる平野部全体を「田園景観ゾーン」とし、高田、本郷、新鶴の3つの地域毎に、それぞれ「産業と歴史のゾーン」、「文化と歴史のゾーン」、「食と農のゾーン」の特色あるゾーンを形成する。
- ・これらの地域内の温泉施設、インフォメーションセンター、まちの駅等の主要観光施設と、新鶴スマート IC や鉄道駅等の交通結節点を「回遊拠点」に位置づけ、二次交通を導入し、3地域間、あるいは交通結節点と各地域をつなげる。
- ・また既に特色ある活動が展開している関山地区（「エコと棚田のゾーン」）や、温泉施設等（「ヘルススポット」）を本郷地域や新鶴地域の各ゾーンと「ハイキングルート」として結びつけ、回遊エリアを広げる。

3) 地域別構想

①高田地域「文化と歴史のゾーン」、

- ・寺社や蔵などの歴史的建造物が多いゾーン
- ・歴史的施設や生活文化を活かした取組の推進
- ・「田園景観」ゾーンの中心に位置し、広々とした田園や農を活かした取組

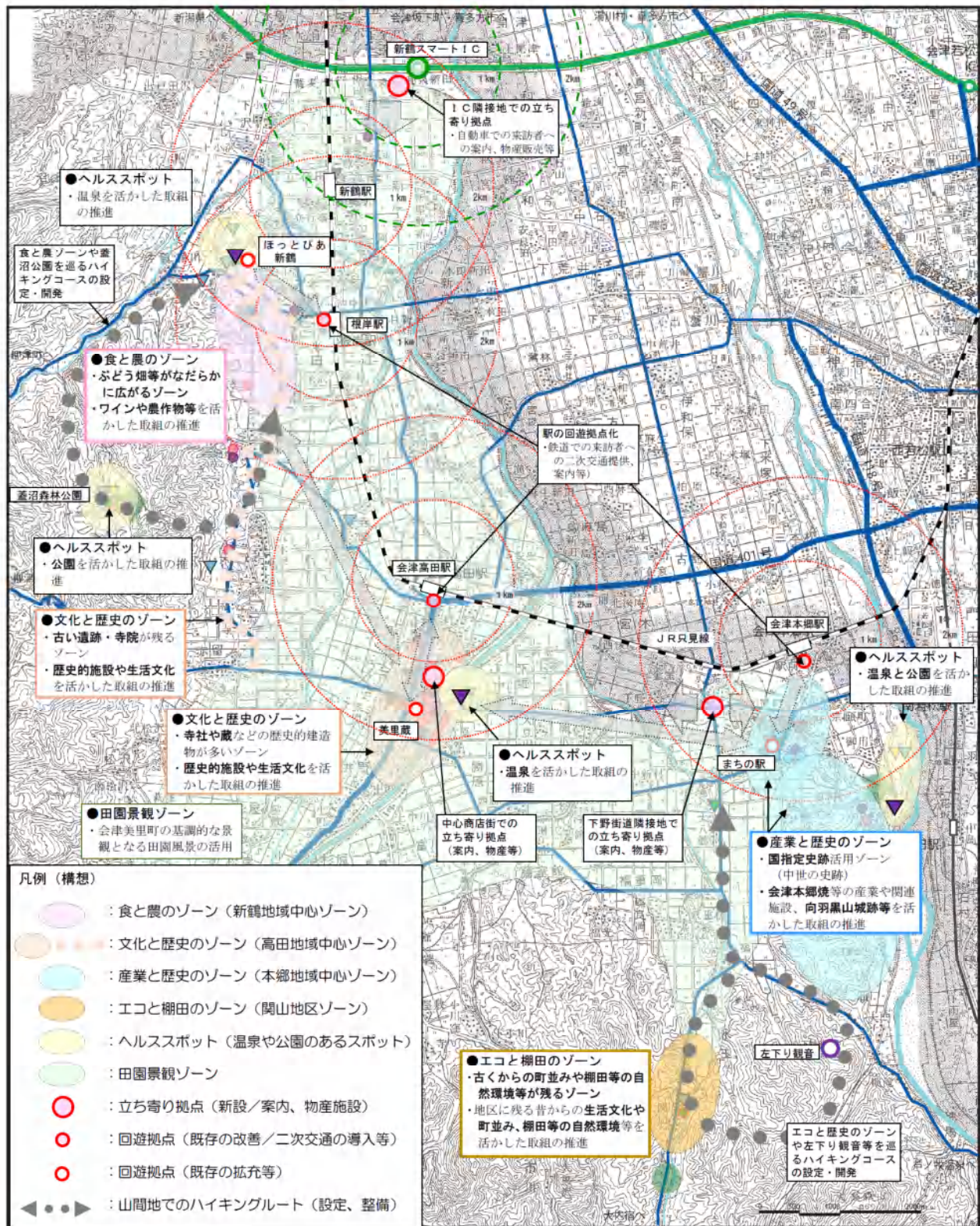
②本郷地域「産業と歴史のゾーン」

- ・会津本郷焼の窯元や中世の歴史資源が多く残るゾーン
- ・会津本郷焼等の産業や関連施設、向羽黒山城跡等を活かした取組の推進
- ・関山、左下り観音等を含めた周遊ゾーンを形成

③新鶴地域「食と農のゾーン」

- ・ぶどう畑等がなだらかに広がる丘陵ゾーン
- ・農作物等を活用した六次産業化の推進
- ・周辺に温泉施設や蓋沼森林公園などのヘルススポット、寺院が点在
これらを含めた周遊ゾーンを形成

■全体構想図



- 花 (桜、あやめ、菜の花、赤そばの花)
- 貴重な動植物 (虫、モリアオガエル等)
- 風景
- 眺望
- 歴史文化
- 産業文化 (会津本郷焼)
- レジャー施設 (多目的公園等)
- 宿泊施設 (キャンプ場合含む)
- 物販施設
- 観光案内施設 (イフォメーションセンター、まちの駅)
- 温泉
- 観光駐車場
- 街並み整備